

令和5年度第2回 里庄町総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和6年2月20日(火)〈開会15時00分、閉会15時30分〉
- 2 場 所 里庄町役場本庁舎2階 第2会議室
- 3 出席者 町 長 加藤 泰久
教育長 杉本 秀樹
教育委員 堀 朝子 藤井 幸治
小野 愛
オブザーバー 赤木副町長 村山教育委員会事務局長
淡路教育委員会事務局参事
天野教育委員会事務局参事
事務局 仁科総務課長 佐藤総務課主事

4 議事にかかる出席者の発言

(1) 非認知能力向上の取り組みについて(議事進行:町長)

【加藤町長】

非認知能力向上の取り組みについて、教育委員会から説明をお願いしたい。

【天野教育委員会参事】

非認知能力向上の取り組みについてご説明をします。

非認知能力向上の取り組みとして、3シヨンプログラムについては、皆さんもご承知のとおり、令和2年度から始めており、今年度で4年目となります。4年目を迎え、それぞれの学校の実態に合った特色のある活動が生まれてきておりますのでご紹介をさせていただきます。

特に今年度は、西小学校と里庄中学校が一步踏み込んで、子どもたちの実態の応じた取り組みをしています。

なお、東小学校につきましては、従来の取り組みに加え、よく工夫をしていることとして、学校行事を行う際に、学校行事の目標に、非認知能力の項目もきちんと据えています。学校行事が終わったら、その力がついたかどうかを子供たちに振り返りをさせながら、工夫をしてきている状況です。

それでは西小学校の説明をいたします。

西小学校は強化週間を設け、3シヨンチャレンジ2Weekを実施しました。これは、特定月の2週間を重点週間として取り組むものです。資料9ページをご覧になっていただきたいのですが、これは、第4回3シヨンチャレンジ2Weekを10月に行った振り返りになりま

す。この2Weekは「心をコントロールする力」が、本校児童の弱い部分だということを全職員で共通理解した後、取り組みを行いました。

また、3ションチャレンジ2Weekは年間6回に分けて、様々な力を重点的に育てるということで計画的に行っております。

次に里庄中学校の説明をいたします。

資料の1ページをご覧くださいますと項目が①から⑫までの12項目あります。

5つの項目を「つきたい力」とし、「A、自分を高める」、「B、向き合う」、「C、他者と繋がる」の三つを大事にしながら、「D、地域と繋がる」、認知的なところも育てようということで「E、思考力」の部分も加え、独自のものを作成しています。中学校が設計しているのは「向き合う」「他者と繋がる」「思考力」の力をつけることで最終的に「自分を高める力」が育っていき、これが自己肯定感の向上、あるいは夢に向かって努力できる生徒を育つという目標です。これを全教職員で共通理解をしています。

中学校はどのように工夫しているかといいますと、毎時間の授業の中で、今日の授業の中では、どのような力を育てるかということを生徒に投げかけ、生徒自身に意識をさせるということをしています。

次に4ページの資料になります。左側の項目が先生方の考えた課題等が示されています。例えば①番「忍耐力、粘り強さ」の課題に対して、「アンケート項目」の言葉を使って生徒に効果検証のアンケートを行っています。

次に5ページの資料は、アンケート結果を肯定的、否定的回答の割合を数値化したもので、当初9月の状況と12月末の状況を比較しています。太い黒枠が向上が著しかったところ、太い赤枠がマイナスが出たところとなっています。このような状況確認をしながら、向上した項目、マイナスとなった項目それぞれについて、全職員が共通認識を行い、次への取り組みを計画しています。

以上になります。

●加藤町長

ただいま説明がありましたが、何かご意見ご質問がありましたら、お願いします。

●堀委員

意見質問ではないのですが、先生方のその子どもの状態に合わせた取り組みを熱心にされていることがこの資料の中から理解ができ、ありがたく感じています。

また、学校公開時に子どもたちがグループで調べ物をし、クラスの中で説明を自信をもってできていと思います。このプレゼンテーション力を始め、3ションプログラムの力がついていると思いました。

●加藤町長

藤井委員お願いします。

●藤井委員

中学校の資料5ページですが、この数値以外に先生方がこのようところが良くなったという点がありましたら教えてください。

●天野教育委員会事務局参事

先生方の感覚としては、子どもたちが柔らかくなったと表現されています。友達同士での関わり方が以前よりも優しくなって柔らかくなったという実感はよくお聞きをします。

●加藤町長

小野委員お願いします。

●小野委員

先生方1人ひとりが本当に子どもたちよく見てくれており、認めてそして褒めてくれていたということが卒業した今でも子どもたちに残っている。

私の子どもも小学校でクラス担任ではない先生に褒めてもらったことを今でも覚えており、よく見て、褒めてくれて自信を伸ばしてくれるから、その授業を担当した先生の教科がすごく伸びている。

認めてそして褒めるということは大切だと思いました。

●加藤町長

天野参事。これまでのお話をお聞きになられて、何かありますでしょうか。

●天野教育委員会事務局参事

学校での取り組みを家庭の保護者にも情報としてお知らせをして、地域全体で取り組む必要があると感じました。

また、たくさんお褒めの言葉をいただいたので、校長先生や先生方にお返しさせていただきます。

●加藤町長

その他何かございませんでしょうか。

●杉本教育長

3シヨンプログラムから離れてしまったら申し訳ないですが、先日ラジオを聴いたときに、幼児教育の専門家が電話相談に答えていたことをお話しさせていただきます。相談内容は1歳の子どもの、家の中で硬いものを投げる問題について、専門家の先生が柔らかいボールやスポンジを置いて投げさせる方法を提案していました。また、投げる行為をやめさせた

いという質問に対して、子どもが我慢しているときに認めることで、次も我慢することができるようになると言われていました。これは、簡単そうであるが実際には難しいポイントではないかと感じました。

●加藤町長

その他特にございませんか。

それでは以上をもちまして本日の議事を終了したいと思います。

皆さん引き続き、どうぞ里庄町の教育行政の推進をどうぞよろしくお願いします。

今日は本当にありがとうございましたありがとうございました。

●仁科総務課長

それでは以上をもちまして、令和5年度第2回里庄町総合教育会議を終了させていただきます。

皆様本日は本当にありがとうございました。